



通信員コメント欄からの声を集めてみました。

## 希望記事

・(前文略) 定年退職後の生活者向けの記事、例えば、ライフスタイルの特徴ある生き方をされている方の紹介とか、生と死に関する観念についてなど、セカンドライフの方々も楽しめるものを増やしてほしいものであります。

・最近、定年退職後も引き続き県の仕事に尽力されている方がたくさんいらっしゃいます。そういった再任用職員や再雇用嘱託員の方々の声(仕事、家庭、金銭面等)についての現状)を是非聞いてみたいです。

・定年後に充実した人生をおくられている人の紹介記事をどんどん掲載していただきたい。私たちの道しるべとなると思います。  
・公務員退職後に現役時代にやっておくべきだったと感じている退職者の声

読者のほとんどが現役公務員ですから、その方々も興味を持ってくださる形での掲載を今後とも考えていきます。退職後世代も含め、偏らず色々な世代の方々の記事を入れることが基本と考えています。

・藤田かおり先生の「やせヨガ」が大変参考になるので、これからも連載してほしいです。(他同様一名)

一旦、二〇〇九年二月号までの三連載で終了とさせていただきます。さらに詳しく知りたいという方は、「一日二分姿勢美人やせヨガけんこう骨と骨盤のゆがみ撃退で基礎代謝力アップ&全身ひきしめ!」(中経文庫)を読んでみては如何でしょうか。安価で、わかりやすい本です。

・〇〇入門のような、紹介をしていただければ良いかなと思います。何か始めたいと思っても、そもそも知らないことがたくさんあって、人に聞けないようなこともあるかと思えます。写真、俳句、オペラとかなんでもいいので、きっかけがあればやれることがあるかもしれないと思います。

現在の「Hobby & Sports」のコーナーは、体験者談という形で掲載しています。きっかけ作りは大切ですので、「Hobby & Sports」のコーナーの今後の切り口として、または、コラムとして、検討してみたいと思います。

・公的年金制度の最近の動き(他同様二名)

職域加算の見直しの件など、本来確定していなければいけない部分の決定が遅れに遅れています。変化があった時点で掲載してまいります。年金に限らず、健康保険なども同様に考えています。

・平成の大合併といわれる市町村の合併が一段落しました。自治体の数が四分の一程度に減りましたが、そろそろ今回の合併の考査がでないのでしょうか。メリット、デメリット、財政的視点から、または、そこに暮らす人々の生活の視点から、一〇年くらいたってからの方が良いのかもしれませんが……。

今年度、キャリアハンドブック「合併後のまちづくり(仮称)」を発刊します。これからの地方公務員のあり方について解説します。全自治体の福利厚生担当課(職員課など)に平成二三年二月頃、配付予定です。



## その他のご意見

・二年ほど前、安全衛生委員会を担当することになり、ALPSを初めてじっくり読ませていただきました。読み始めたら、毎号身近でありながら多岐に渡る内容で、こんな冊子があったのかと楽しみにになりました。二〇年度モニターをやらせていただき、より時間をかけて読ませていただくことができました。同じ市役所にいながら、現在の職場に来なかつたらALPSとの出会いもなかつたのかなと思うと、もっとアンテナを高く好奇心旺盛に……仕事の中でもそんな余裕を持つことも大事だな、などと感じました。これからも意識してALPSを手取るようにしていきたいと思います。ありがとうございました。

こちらこそ、ありがとうございました。

・公務員生活も残すところあと二年。再就職の道を探すか、ボランティアなどを通して地域貢献を行うか、ALPSの記事を参考として考えているところです。

分岐点での選択は重要です。その一助となれば幸いです。

・「公務員へのきつかけとなった社労士への挑戦」若い公務員の方ですが、しっかりとした目的意識を持って大企業から地方公務員という仕事を選択され大変立派だと思います。公務員生活の中でも社労士の資格が生きるポジションでの活躍を期待しています。

同感です。

・五〇歳代を迎えた友人と話をすると、夫婦で社寺仏閣や文化財を歩いて回っていると言うことで盛り上がる場合があります。簡単な仏像や社寺の建物の見方や歴史などを知っていると楽しみが広がるように思います。また、西国三三寺や四国八八箇所、花の寺めぐりなどいろいろなコースもあります。その楽しみ方も教えていただければと思います。

今号より日本にある世界遺産をコラムで取り上げることになりました。お楽しみください。

・メタボ対策も含めて健康に関する情報は関心が高いと思います。ストレスの多い現代社会で周囲にも鬱等が増えています。職場の同僚や家族の接し方、医者選びの注意点等ご教示頂ければと思います。(他同様一名)

今号より三連載で吉川先生のご執筆によるメンタルヘルスについて取り上げます。参考にしていただければ幸いです。



「お墓と供養について考える」が大変面白かったです。通信員にアンケートを取ること斬新で、通信員としての負担も少ないので、今後機会があれば続けてほしいです。

今回の「お墓と供養について考える」はとても良い企画だと思います。お墓の引越しや供養形式の多様化など、そのような選択肢があるのを知りませんでした。自分達の祖先のお墓の管理について考えるきっかけになりました。

「お墓と供養を考える」なかなかヒットなテーマ、地方公務員では考えにくいが転勤族では墓の管理が難しいと聞く。そして少子化時代、生きていくのが大変、そして歳をとる、先祖のこと、自分の死後のまつり、どう考えるか難しい。(後略)

「お墓と供養について考える」は、好企画でした。自分にとってなかなか聴きたくても人に聴けない・誰に聴いて良いか分からない話題でしたので、非常に興味を持って読みました。

郷里を出て三〇年。郷里には、年老いた母とお墓があります。私は長男であることから、妻との間で母亡き後のお墓について話題になることがあります。今回の「お墓と供養について考える」は、今後の自分自身のあり方について大変有意義で考えさせられる記事でした。

お墓と供養の記事は普段あまり意識していないだけに意外感がありましたが、避けて通れないことなので参考になりました。

お墓に関する記事も、興味深く読みました。アンケートに基づくものだけに、実感も大きかったです。ふだんそこまで聞けない内容でもあり、よかったですと思います。

死に関する記事でしたが、正直なところ心情的な理由で読んでいません。すみません。『おくりびと』の受賞をきっかけにして考え直したいです。

「お墓と供養について考える」にご意見をくださった全ての方々のコメントを今回は掲載してみました。一つの記事でも感じ方が微妙に違いますね。考えるきっかけになった、役に立ったというご意見が多く感謝しています。

内容的には、タブー感を持つ方がいらっしやる分野なので、掲載を躊躇したこともありましたが。今は、踏み込んで掲載して良かったと思っています。

「八八号」での「高齢期の問題」もとても参考になりましたが、九二号での「老年期の問題」もく身近な問題として、これから誰でも迎える老年期への心構えを覚悟したところです。只今、老後の年代を歩いていますが、現状の自分の在り方はまわりの人にとってどのように映っているのか考えさせられるところです。もう一度立ち止まる良い機会にもなりました。改める点などの気付きにもなり、心の持ち方のヒントをいただきました。

ありがとうございます。

この一年間ありがとうございます。有用な情報で、ライフプランだけでなく、今後の仕事にも活かせることもできました。これからも、よろしく願いいたします。

ありがとうございます。でも、仕事もライフプランの一要素ですよ。

ALPSを目にするようになり、日頃考えることのない視点で記事を読むことで、視界がだいぶ広くなりました。今後も楽しみにしています。

異なる視点でものを見る、考えることは、本当に重要なことだと思います。編集を行う上でも、突飛にならず、しかし、盲点かもしれない、そういった部分に今後とも触れていきたいと思っています。

能勢さんの執筆はとてもよかったです。アメリカ横断ウルトラクイズを子どもの頃よく見ていた私にとって、能勢さんは神様のような存在でした。今でもご活躍で嬉しいです。これからも懐かしの方が掲載されることを願っています。(他同様一名)

同感です。

・消防団員の確保の重要性は良く分かりますが、防災活動にボランティア的な形での参加にもなっているのでしょうか、待遇的な面ではどのような配慮が為されているのか不明です。そうした点も説明がほしかったですね。

了解です。今後の消防団に関する記事の中で触れていきたいと思えます。

・消防団員の確保について、一言、言わせてください。今日、常備消防の充実が図られており、山間地を除く都市部で非常備の消防団が本当に必要でしょうか。既に消防団員七割が被雇用者であるという実態を見て、いざというときに役に立つのでしょうか。消防庁は確保とっていますが、消防団の維持にかかる経費も少なくありません。見直しを求める声がないのでしょうか。

費用対効果という側面でペイしているかという点、議論の余地があるかも知れません。しかし、非常備の消防団の存在意義は、常備消防が及ばない状況になった場合です。例えば、阪神・淡路大震災において、消防団は、消火活動、要救助者の検索、救助活動、給水活動、危険箇所の警戒活動など、幅広い活動に従事しました。特に、日頃の地域に密着した活動の経験を活かして、倒壊家屋から数多くの人々を救出した活躍にはめざましいものがありました。こうした活動により、地域密着性や大きな要員動員力を有する消防団の役割の重要性が再認識されたという事実は、その存在の拠り所とする点ではないでしょうか。

・「映画の中の人生」は今回で終了なのでしょうか？ 映画に対する愛情と確かな視点が感じられ、いつも楽しく読ませて頂きました。（他同様一名）

二〇〇九年二月号で終了とさせていただきます。四月号からの新しいコラムもお楽しみください。

・役に立つ、また前向きな内容の記事が多く、いつも楽しく読んでおります。ありがとございます。ちよつとあまのじゃくかもしれません、投稿者や通信員は、ボランティア活動などを実践する積極的な方が多いのではないかと思いますので、逆にあまり活動されていない方などは、どのような生活をされ、将来不安がないのかなど、アンケートなどをして記事にはいかがでしょうか。難しいかもしれませんが、逆転の発想でどうでしょうか。おもしろくないですか。好き勝手を言ってますみません。

企画として面白いと思えます。記事になった時点で、興味ある内容に仕上げることでできそうであれば、トライしてみます。

・「不可能を可能にする力」の竹村課長さんのバイタリティとサービスピリット、多方面での活躍など、学ぶべき点が非常に多いと感じました。

本当にそうですね。

・今号はお墓の話、老年期の話、自分の過去を幼年期まで遡り分析する話など、偶然このラインナップになったのかもしれませんが、人生について考えさせられました。

ALPSの読者は年代層が幅広いですが、特定の年代（例えば五十歳代）を意識して入れる記事もあります。しかし、例えば定年退職されたOBの方からの感想として、「若い人が活躍する姿をみて、元気をもらった」と言うてくださる方もいます。ご自身の年代のことや特定の事項を記載した記事の後日でも参照にできるように、協会のホームページでバックナンバーもご覧いただけますので、ご活用ください。バックナンバーへのアクセス方法については、今号に記載しておりますのでご参照ください。